

中間報告

令和2年度
景気観測調査
報告書

令和3年3月

玉造商工会



【目 次】

I. 調査概要

II. 調査結果

1. 業況判断

2. 業況判断（前年度比較）

3. 業種別業況判断の主な理由

4. 次期の業況見込み

5. 次期の業況見込み（前年度比較）

6. 業種別次期の業況見込みの主な理由

7. 設備投資の動向

8. 設備投資の主な内容

III. 調査票

I. 調査概要

1. 調査目的 : 当地を代表する観光産業の景気動向を把握し、今後の地元観光産業の基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査対象者 : 玉造商工会会員事業所（法人・個人含む）で、観光産業に関連する事業所の経営者、または経営に携わる方。

※業種と対象者数

・ 木地漆器業	5 事業者
・ 小売業	12 事業者
・ 料理、飲食業	9 事業者
・ 旅館、ホテル業	9 事業者
合計	35 事業者

(※事業者の選定は任意)

3. 調査方法 : 上記対象者に対する留置きパネル調査

4. 調査期間 : 四半期毎
3月～5月 (第1期)
6月～8月 (第2期)
9月～11月 (第3期)
12月～2月 (第4期)

5. 調査項目 : ①当期の景況感についての判断及びその判断理由
②次期の景況感についての見込み及びその判断理由
③設備投資の有無及びその理由

6. 集計方針 : 調査項目の①、②は、「景気がよい」「やや景気がよい」と判断した回答の構成比合計から、「やや景気が悪い」「景気が悪い」と判断した回答の構成比合計を差し引いた数値で業況判断の指数 (Diffusion Index) としている。なお、「例年と変わらない」はカウントしない。
また、各事業所の業況判断の理由を踏まえ、指数と照合し相対的に各期の景気動向を解釈する。
調査項目の③は、業種ごとの設備投資の有無とその理由について、相対的に検討し業況判断を行う。

7. その他

- : ①集計結果については、回収数を母数とし地域全体の代表性を表すものではない。
- ②集計時の構成比は、小数点以下2位を四捨五入しているため合計が必ずしも100%にならない場合があるが、表記は100.0%としている。
- ③報告書作成においては、集計方針を受けて有用と判断されるものを採択し掲載することとする。
- ④本報告書は、年間4回の調査を集約したものである。
- ⑤調査結果1. 及び4. に掲載している年間ポイントは、本事業継続を前提とすることにおいて、以後の年度ごとにその業況感の向上・回復や下降・下落の変遷を比較することを狙いとしている。

II. 調査結果

1. 四半期ごとの業況判断

第1期（3月～5月）は、新型コロナウイルス感染症拡大により4月～5月にかけて緊急事態宣言も発令されたことも相俟って、全業種で「景気が悪い」との業況となった。

第2期（6月～8月）では、木地漆器業、料理・飲食業の業況改善は見られなかったが、水面下ながら小売業、旅館・ホテル業は、僅かではあるが改善が見られた。

【図表1 四半期ごとの業況判断】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	不調	不調	不調	不調
第2期	不調	不調	不調	不調

※判断基準：好調 =50%以上

やや好調=1%～50%未満

やや不調=0～-50%未満

不調 =-50%以下

※年間ポイント：好調 =1ポイント

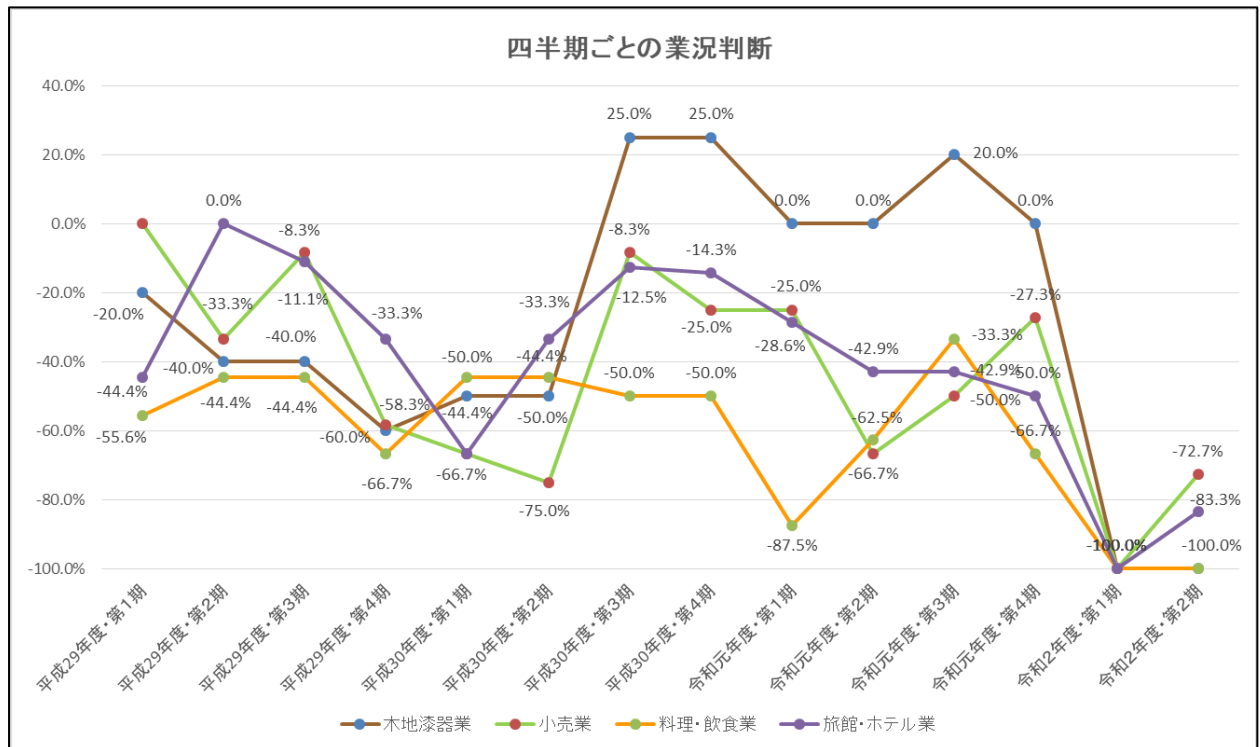
やや好調=0.5ポイント

やや不調=-0.5ポイント

不調 =-1ポイント

の加減

(最高点=4ポイント 最低点=-4ポイント)



2. 業況判断（前年度比較）

前年度との比較において、第1期（3月～5月）は、全業種において悪化しており、特に、木地漆器業、小売業、旅館・ホテル業が大幅な悪化となった。

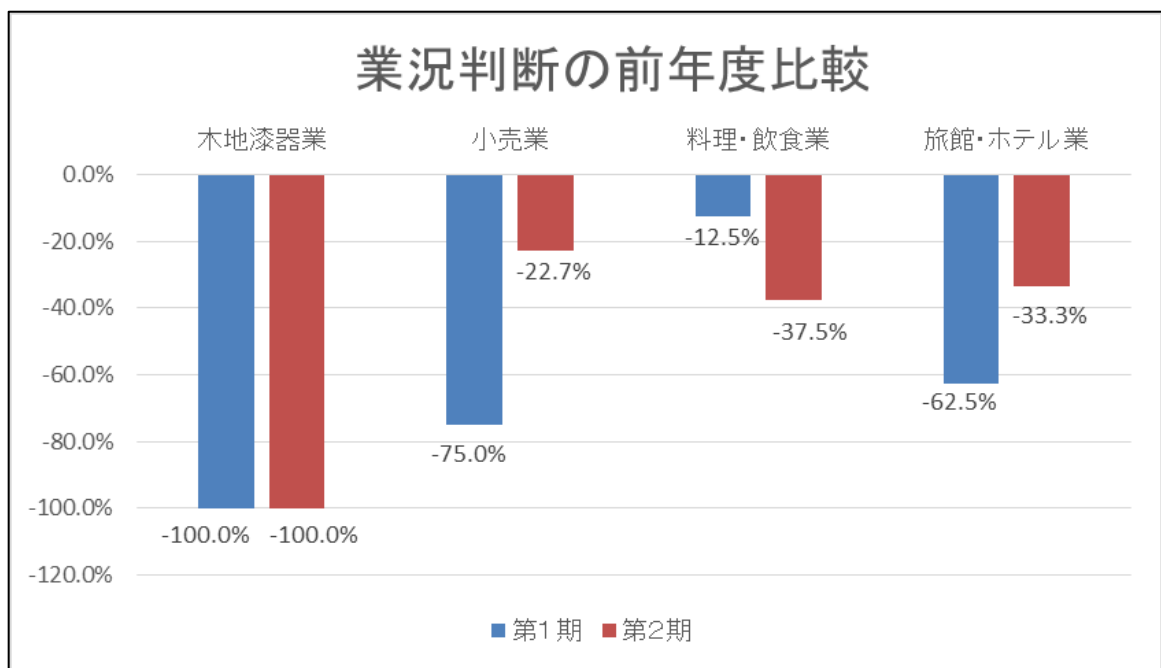
料理・飲食業については、悪化幅は小さいが前年同期の業況がそもそも悪化していたことによるものである。

第2期（6月～8月）では、木地漆器業が第1期同様大幅な悪化となっており、料理・飲食業は、悪化幅が拡大している。

逆に、小売業、旅館・ホテル業では悪化幅が縮小している。

【図表2 業況判断の前年度比較】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	-100.0%	-75.0%	-12.5%	-62.5%
第2期	-100.0%	-22.7%	-37.5%	-33.3%



3. 業種別業況判断の主な理由

①第1期（3月～5月）

- ・コロナになり、店舗も休業したので売上は無かった。
- ・コロナにより観光客が来ない
- ・コロナが流行し、来客、体験、食事の予約が無くなった
- ・今年はコロナウイルスのため、ほとんどお店は休業状態でした
- ・コロナ流行のため、休業日を設けたりしたので、売上としてはまったく効果はなかった
- ・新型コロナウイルスの影響で、観光客が激減し、土産品の売上が減った。5月のゴールデンウィーク中は休業
- ・来客、販売量ともにコロナの影響により大幅に減少。GW期間は休業した。

- ・観光客の減少。地元人口の減少。
- ・コロナの影響。客数減少、売上減少。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく売上を下げることとなったため。
- ・コロナの影響が最も大きく出た時期です。
- ・新型コロナウイルスの影響により、入館者減のため。
- ・コロナのため
- ・新型コロナウイルスの影響。3月4月からの団体予約はキャンセル、法要での会食の中止が相次いだ。テイクアウトランチを提供しているが、売上減少分を埋めるには至っていない。
- ・観光客が完全に減少しているし、お客様の単価が落ちて来ています。高齢のため、足を運べなくなった方々も多く、全体的に街の中も静かで日中でも閑散としている。
- ・新型コロナウイルスの影響で、来客数が減少した。
- ・コロナの影響
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業したため。
- ・コロナの影響で、観光客が全くというほど来なかった。5月は連休を含め、休業を多くとった。
- ・コロナによる影響で休業もあり、どうにもなりません。
- ・政府の安売り観光一辺倒により湯治場の声が掻き消されている状態。旅をする行為の主体性の喪失状態。このことがコロナよりも傷口を拡大している現状。コロナが終焉してもこの傷口は癒えないように思える。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により来客数の激減、休業により収入減。

②第2期（6月～8月）

- ・まだまだコロナの為に観光客が鳴子に来ていない状態です。
- ・コロナにより観光客がいない
- ・体調が悪くなり、4ヶ月仕事が出来なかった。
- ・8月に入り、クーポンをご利用されるお客様で少しは忙しくなりましたが、今年の1/3の売上でした。
- ・コロナに対する行政などからの助成があり、何とかつなぐことが出来ている。
- ・新型コロナウイルスが終息せず、観光業が大打撃を受けた。
- ・前の四半期に比べ少しは良くなったが、まだまだ来客は戻っていない。
- ・コロナの影響
- ・コロナウイルスの影響による景気悪化
- ・やはり、コロナの影響は少なからず残ってます。
- ・新型コロナウイルスの影響により入館者減の為。竹細工の生産数減の為。
- ・コロナの為
- ・まだ会議等会食は、まだまだ前年度の売上にはむずかしい。

- ・客足が伸びず、自粛生活が続き、お盆でもあまり出歩くお客様も見えず、全体的に売上は伸びない。
- ・新型コロナウイルスの影響で、売上は前年の50%以下である。
- ・新型コロナウイルスのため
- ・コロナの流行で、観光客が激減、宿泊施設が休業。
- ・コロナの影響はあるものの、さまざまな景気対策もあり、売上も例年並みに戻ってきている。
- ・第1期から立ち直れず、引きずっている状態
- ・コロナ感染が終息していない。

4. 次期の業況見込み

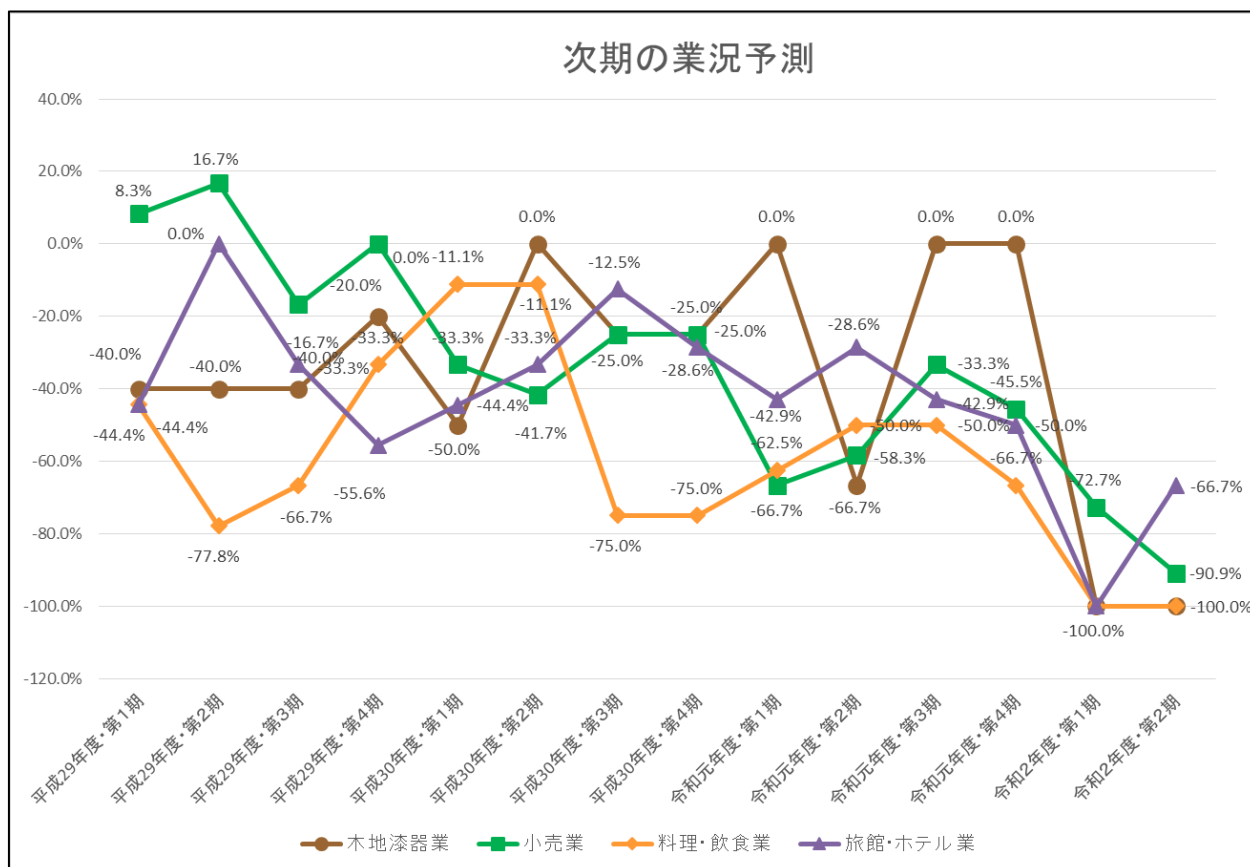
次期の業況予測としては、全業種、各期において水面下の見込みとなっている。

第1期（3月～5月）は、新型コロナウイルス感染症拡大の長期化の見通しから、全業種で業況は悪化すると予測されている。

第2期（6月～8月）では、木地漆器業、料理・飲食業、小売業で悪化すると予測であるが、旅館・ホテル業では、GoToキャンペーンなどの景気対策への期待もあって、僅かではあるが改善見込みの予測となっている。

【図表3 次期の業況予測】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期→第2期	不調	不調	不調	不調
第2期→第3期	不調	不調	不調	不調



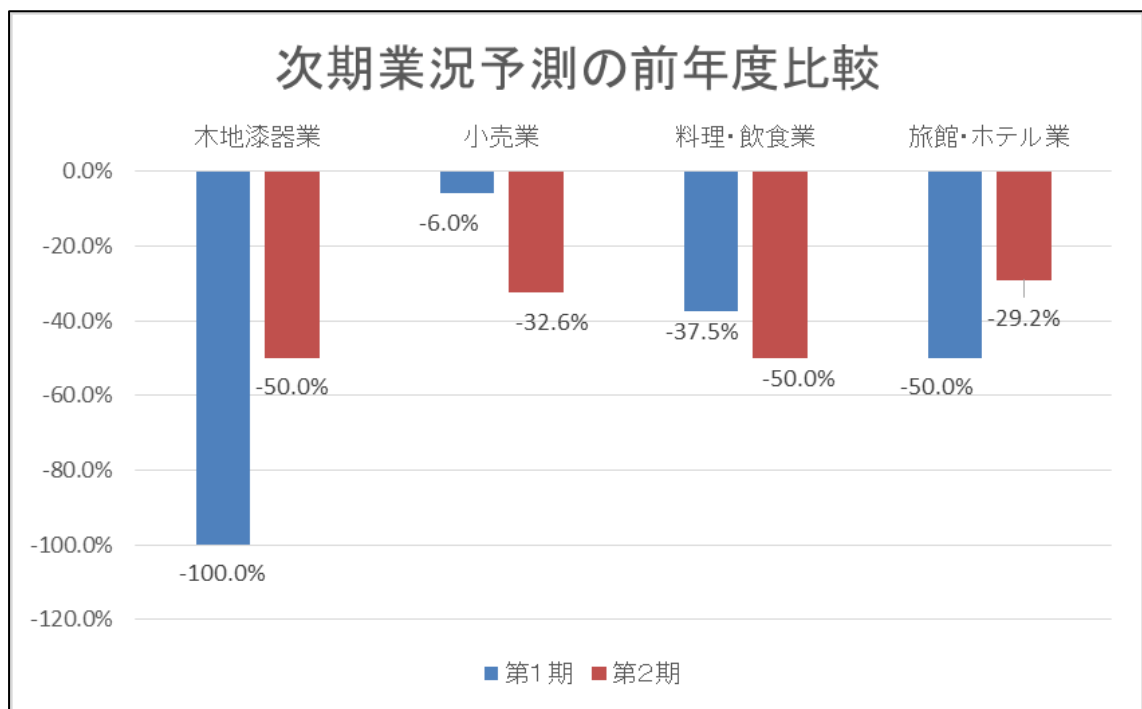
5. 次期の業況見込み（前年度比較）

前年度との比較において、第1期（3月～5月）は、全業種において悪化しており、特に、木地漆器業が大幅な悪化となった。

第2期（6月～8月）では、木地漆器業、旅館・ホテル業が悪化幅を縮小しているものの、逆に小売業、料理・飲食業は悪化幅が拡大している。

【図表4 次期業況予測の前年度比較】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	-100.0%	-6.0%	-37.5%	-50.0%
第2期	-50.0%	-32.6%	-50.0%	-29.2%



6. 業種別次期の業況見込みの主な理由

①第1期（3月～5月）

- ・GoTo トラベルのクーポン券があるのですが、思うように商売が出来ない状態です。（コロナが怖い気がしています）
- ・コロナの終息が見えない
- ・展示会をする場所から話が無いため、展示会が出来なかった
- ・コロナウイルスが終息しない限り、みやげ店はきびしいです
- ・コロナ禍が続く
- ・コロナの影響が長引くと予想していた
- ・猛暑で甘味が遠のく。
- ・コロナの影響。
- ・コロナウイルス終息の目途が立たないことから、次期景況も悪いと思われる。

- ・今期よりは持ち直すだろうと思うが、昨年と比較した場合は、落ちると思うから。
- ・新型コロナウイルスの影響により、入館者減のため。
- ・コロナのため
- ・まだわからない、見通しが見つからない状況です。
- ・新型コロナウイルスの感染とか、生活環境の変化で、お客様が出歩かないのではないかと懸念している。
- ・新型コロナウイルスの影響で、来客数が減少し、大幅な赤字が見込まれる。
- ・ホテルの宴会客がいなかったため、夜10時以降のお客さんが来ない。
- ・コロナが終息しない限り、景気上向きは期待できない。
- ・コロナの状況がどうなのかわからないので、良くなるとは思えないが、行政による景気対策もあるようなのでどうなるか？
- ・現状では、好判断の種が無い。
- ・新型コロナウイルスの影響で、来客が見込めない。

②第2期（6月～8月）

- ・コロナが流行している時季に対して、いつもの重要指標に該当するものはないです。
- ・コロナの終息が見えない。
- ・リハビリを兼ねて、お願いされた器を直している。
- ・新型コロナウイルスの終息を待つのみです。
- ・観光業の稼ぎ時の秋が訪れるが、各種イベント、催事の中止で、集客が望めない。
- ・紅葉シーズンもあり、最低限の売上が確保は出来る。
- ・コロナの影響
- ・新型コロナウイルスの影響による景気悪化が見込まれる。
- ・コロナの他に、自然災害や健康不安が重なっており、消費が落ちるような気がします。
- ・新型コロナウイルスの影響により入館者数減の為。竹細工の生産数増の見込みが無い為。
- ・コロナの為
- ・女性をターゲットにランチ、カフェ時間での早急な集客を行うために補助事業を活用して、認知度アップ、入りやすい店づくりを行う。
- ・新型コロナウイルス、自粛で、お客様が完全に減っています。よく来ていただいたお客様の来店数も減り、このまま景気が悪くなってゆくと思っています。
- ・来客数が大幅に減少している。
- ・コロナで街全体が低迷している。当店も同様である。
- ・GoTo キャンペーンなどの景気対策は、続いているので、ある程度は景気が良い方向に向くのではないだろうか。
- ・好材料が見えない。
- ・来客数が戻らない。

7. 設備投資の動向

設備投資の動向については、小売業、料理・飲食業でコロナ感染症対策としての設備投資の積極さが窺われるが、木地漆器業、旅館・ホテル業では消極的となっている。

【図表5 各期の設備投資の状況】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	0/5件 (0.0%)	5/12件 (42%)	2/9件 (22%)	0/9件 (0.0%)
第2期	0/5件 (0.0%)	3/12件 (25%)	3/9件 (33%)	0/9件 (0.0%)

8. 設備投資の主な内容

①第1期（3月～5月）

- ・コロナ対策をしながら。
- ・機器の点検または古くなりつつある設備がある
- ・カロリー表示のプリンター（9月予定）
- ・新しい運営方式を取り入れるため、設備改修工事を見込んでいる。
- ・老朽化、省力化。
- ・コロナ対策で、店内の環境、衛生に何か設備したい。

②第2期（6月～8月）

- ・新商品または新パーラーにともなう機材等の設備
- ・現況の景気悪化を改善するために、設備投資を行って、新しい業務対応を行うため。
- ・老朽化、省力化。
- ・オープンカフェを当店敷地内に設置することで、散策している方を誘導する。三密対策になり、お客様に安心して飲食していただくことができる。メニューや価格を明示する掲示板を設置する。
- ・コロナ対策で、何か・・・と思う。